

境町歴史民俗資料館だより 第2号

平成28年8月15日発行

境町歴史民俗資料館
〒306-0431 茨城県猿島郡境町大字西泉田1326-1
電話番号 0280-81-3353 FAX 0280-81-3354
開館時間 通常 9:00～16:30
休館日 毎週月曜/祝日/年末年始

～「天神講」と「天神信仰」～

内門地区では子どもたちの楽しみとして「天神祭(天神講)」があり、地元の人たちは「天神さま」と呼び、1月25日の初天神から始まり、7月には神輿を担いでまわり、11月25日には七五三祝を含んで行われています。

村社である天神社は内門本田集落センターの東側にあり、祭神は平安時代中頃に輩出した学問・文学・詩歌の神として崇められた文章家の菅原道真です。天神講(天神祭)は、子どもたちが菅原道真のように勉強ができるようにと縁日(道真が亡くなった命日)の25日に行われます。

天神信仰の起源は、菅原道真が藤原時平の策略によって島流しにされ失意のまま亡くなった後、策略を企てた藤原一族が雷などで死亡するなど奇怪な死に方をしたことから、「道真の怨霊による祟り」と怖がられたことで、朝廷が道真の怨霊を鎮めるために、火雷天神の称号を贈り祭ったことに由来しています。

かつて、天神講は各地で行われており、江戸時代には寺子屋や子ども組で行われ、天神様をお参りし、菅原道真公の掛け軸を祭って学問や書道の上達を願いました。

内門地区の天神講は毎年、冬休みや春休みの祭日を利用して、子どもたちは年長者の家に集まって天神様にお参りし、子供たちが持ち寄った食材で家の人を作ったご馳走をみんなで食べたり、そのまま泊まることもありました。

その後、天神講のあり方も変わり、夏休みに集落センターに集まり勉強会をした後、おやつをもらったり、親子の親睦を図るためボウリング大会や食事会をするようになりました。長い間伝統文化として行事を支援し続けてきましたが、現在では少子化等の社会的事情によって天神講は行われなくなりました。



内門本田の天神社

(境町歴史民俗資料館 野村正昭)